

## 珠洲市の活力と大学の知を結ぶ —タウン・ミーティングin珠洲市—



中村教授の講演を熱心に聞く珠洲市民ら＝珠洲市産業センター

11月18日、「珠洲の活力と大学の知を結ぶ」をテーマに「タウン・ミーティングin珠洲市」が開かれ、参加した約100人の市民や大学・県関係者らが、奥能登地区と本学との連携、地域の振興などについて意見交換した。

「タウン・ミーティング」は、地域住民と語り、大学が地域に果たす役割を考える場として県内各地で開催しており、今回が5回目。

橋本哲哉理事と貝藏治珠洲市長のあいさつの後、中村浩二自然計測応用研究センター教授が「角間の里山自然学校」を事例に講演し、貴重な生物が数多く生息する珠洲のため池や里山を活用した交流策などを提言した。市民らとの意見交換では、公開講座や法律相談室の開催や共同研究など具体的な提案や「学生や教職員は、もっと珠洲へ来てほしい」などの意見・要望があった。

会終了後、参加者からは「金沢大学が身近に感じるようになった」「金沢大学と協働したい」などの意見が出された。

## 医学系研究科に医科学専攻 (修士課程)を設置

11月25日、大学設置・学校法人審議会から、大学院医学系研究科医科学専攻(修士課程)の設置を認める答申があり、小川智医学系研究科教授(修士課程設置準備室長)ら関係者が、同専攻の概要について石川県文教記者クラブで説明した。【医科学専攻の概要は、6, 7頁で特集】



説明する小川教授(右)＝文教記者クラブ

### 目次

珠洲市の活力と大学の知を結ぶ —タウン・ミーティングin珠洲市—	1
医学系研究科に医科学専攻(修士課程)を設置	1
巻頭言 郷愁を遥かに超えて	2
立教大学と共催「ビジネスクリエイト工房」開講	2
自然科学研究科を取り巻く課題について意見交換	2
最高裁判事が法学部で特別講義	3
義務教育改革と教員養成の諸問題 —教育学部で講演会—	3
教育フォーラム2004in小松 「デジタルコンテンツが拓く子どもの学び」	3
全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム	4
実験科学教育のフロンティア研究と教育の接点を探る	4
医薬系ベンチャービジネスを立ち上げるには?	4
名古屋で開かれた産学官連携ビジネスショウに出席	4
個人情報保護へのルール作りを!	4

「大学評価」への理解を深める	4
カザン国立大学創立200周年記念式典に出席	5
薬学部と河南中医学院が学術交流協定を締結	5
カナダ・ビクトリア大教授が講演	5
金沢大学国際交流後援会主催で留学生が企業見学	5
外国人留学生西陣織など日本文化体験	5
医学系研究科医科学専攻(修士課程)の概要	6
21世紀COEプログラム(革新脳科学)の 研究が本格移動	8
ユーラシア東部の環境・気候を議論西安で研究会	8
日本海の流れと海洋環境を考える	8
ナノテクを活用したものづくり	8
分子標的薬剤開発の現状と展望を議論	8
ゲノムに関する最先端研究の成果発表	8
受賞	9
吹奏楽団 銀賞受賞	9
各部局で防災訓練	9
石川県健民運動青少年 ボランティア賞	9

児童文化部と子ども会 サークル「つみき」が受賞	9
本学へのお客さま	10
東海・北陸地区の教室系技術職員が生殖工学を学ぶ	10
工学部 危険・有害業務従事者が特別教育講習	10
ハラスメント相談員が研修	10
ミニ講演 太鼓をたたこう! —90分でわかる和太鼓講座—	11
公開講座 生涯スポーツ入門 —豊かなスポーツライフ、 生涯スポーツ社会の実現に向けて—	11
やさしい英会話	11
市民が「附属病院を見学	11
北陸地区6大学が連携して「まちなかセミナー」開催	11
「がん医療の最前線」を市民に紹介	11
平成16年度金沢大学永年勤続者表彰式	12
角間キャンパス里山ゾーンで台風被害	12
皇居駅伝 雨の中健闘	12
編集後記	12

郷愁を遥かに超えて



文学部長  
久保田 功

10月21日第52回6大学法文系学部長会議が岡山において開催された。岡山駅の手前で台風23号の直撃を受け、新幹線車両に11時間にわたって閉じ込められた私を含め、翌朝会議に臨んだ各大学の学部長の面々が興奮気味であったのは、自然現象の猛威にさらされたせいばかりではなかったようだ。法人化という未曾有の大渦のせいであったに違いない。6大学がそれぞれ教育と研究において、いかに個性的な特徴を發揮できるかを巡って、真剣な取り組みを開始していることを示す精神的高揚といったものを感じた。その意味では、かなり率直な意見交換や情報のやり取りがあったことは、お互い有意義であったと思う。次回開催担当の新潟大学の学部長の一人が、新

潟ではこんな災害はありませんから御安心下さいと挨拶して、歓談のうちに散会した。

ところが、会議を終えてほっとしたのも束の間、10月23日の夕刻、大地震のニュースに私は度肝を抜かれた。新潟県中越地方に位置するわが故郷小千谷市が震度6強の大地震に襲われた。その夜から3日間程、郷里の兄達の安否確認のために苛立たしい時間を過ごした。自家用車内に避難していた、普段は寡黙な兄が電話口で猛烈な勢いで喋り捲るのに一抹の不安を感じた。郷里の友人達の甚だしい被災状況には、私の方が言葉に詰まった。

小千谷市は、名だたる豪雪地帯である。鈴木牧之による「北越雪譜」(岩波文庫)をご覧いただきたい。除雪設備の機械化が進まなかった昭和30年代末までは、文字通り豪雪に埋もれて人々は生活していたのである。しかし、緩やかな山並みに囲まれ、その中を大河信濃川が蛇行して流れ、遠く越後三山を眺望できるわが故郷は山紫水明の地でもある。興奮した私の想像力や郷愁が現実を過剰に美化しているかもしれないことはお許し願いたい。被災した故郷への思いは、今単なる郷愁を遥かに超えている。ヨーロッパ・モダ

ニズムを標榜し、コスモポリタンの詩人であった西脇順三郎、かの「旅人かへらず」の詩人ですら、最晩年はついに故郷小千谷に帰還し、その地で生涯を終えたのである。故郷なるものの抗し難い魔力を窺がわせる。「西脇家」の血筋を引き、かつ詩人である彼は、市民にとって特別な人間であり、ほとんど畏敬の念を持って崇められていた。私はたった一度だけ、母校の大先輩でもあるこの世界的詩人に対面し、あろうことが彼の詩句の一節を捉えて難じたことがある。生意気盛りの大学生が文学論を展開したのである。今思うと汗顔のいたりである。そのあまりにも美しい詩句が今記憶に蘇る。

信濃川静かに流れよ

我が歌のつくるまで

全国から、郷里やその周辺に寄せられている支援に私自身も感謝の気持ちでいっぱいである。しかし、最も郷里の人々が癒されるのは、かくも甚大な被害を与えた悠久な自然そのもの、故郷の風景とそこに住み続ける人々の不屈で温かみのある人間関係であるように思う。今度は順三郎の詩句が慰撫する魔力となって、故郷の人々を癒してくれることを願うばかりだ。

立教大学と共催  
「ビジネスクリエイト工房」開講

本学と立教大学は、平成17年1月から「ビジネスクリエイト工房」を開講する。工房は、企業の技術者、開発・企画職、営業職らを対象とする全13回のセミナーで、本学の知的財産を素材に、立教大学がMBAコースで蓄積してきたマネジメント手法を用いて新しい市場の創造に結びつけるための実践的なトレーニングを行う。1月から7月まで金沢と東京の2会場で開講され、最終回には両会場の合同発表会が行われる。金沢会場の定員は20人、受講料1人21万円。

11月8日に石川県繊維会館で行われた説明会には、金融機関、情報産業会社など北陸の企業関係者ら約20人が参加した。



立教大学担当者による説明

自然科学研究科を  
取り巻く課題について意見交換

11月8日、第18回国立大学大学院自然科学研究科長会議が本学を当番校として、金沢市内のホテルで開催された。同会議には、文部科学省から高等教育局専門教育課 松澤孝明企画官、磯川寛光教育振興係長を招き、千葉、新潟、岡山、神戸、長崎、熊本及び金沢の7大学の研究科長らが出席した。

会議では、松澤企画官から文教施策等のうち新規事業の産学連携による高度人材育成を中心とする説明とそれに対する質疑があった。引き続き「博士後期課程における学位取得率の向上」、「教員の任期制」等の協議題や自然科学研究科を取り巻く身近な課題について、大学の現状や問題点を交えて意見交換が行われた。



会議の冒頭、あいさつする林勇二郎学長

## 最高裁判事が法学部で特別講義

法学部は11月19日、最高裁判所判事 泉 徳治氏を講師に招いて特別講義を開催した。法学部では、法科大学院の開校や11月に発表された司法試験結果で6名の合格者を出し、法曹への関心が高まっていることから、法学部、法学研究科及び法科大学院の学生約250名が受講した。

泉判事は「司法とは何か」をテーマに、司法制度改革の中からこれまで立法や行政の仕事として司法が介入しなかったことも、今後は司法が取り扱うべきであるという考えが広がってきたことを紹介。その上で、数例の最高裁判決を題材に司法の役割と国民のあるべき姿勢について説明した。

学生からは、司法と行政の判断に齟齬がある場合の考え方、在日外国人の地方参政権、国会議員の定数是正、裁判員制度、憲法改正、市民への法律知識の広め方など多岐にわたる質問が寄せられ、司法の実務に携わる指導的裁判官の司法に対する考え方に聴き入った。



講義する泉判事＝文・法・経済学部101講義室

## 義務教育改革と教員養成の諸問題

### －教育学部で講演会－

教育学部は11月4日、日本教育大学協会の鷲山恭彦会長（東京学芸大学長）を招いて講演会を開催し、50名を超える教職員が出席した。

「義務教育改革と教員養成の諸問題」と題して講演した鷲山氏は、はじめに「三位一体改革」と義務教育費国庫負担制度の危機的情勢について説明した後、去る10月20日、文部科学大臣が中央教育審議会に諮問した「今後の教員養成・免許制度の在り方について」に言及し、「諮問は、大学教育が学校教育現場の焦眉の課題に答えていないことを問いかけている。また、専門職大学院の在り方に関し、修了者の処遇、既設の修士課程との関連等の課題について、教育現場から教育大学協会に意見を集中してほしい」と強調した。



鷲山氏と出席の教職員＝教育学部会議室

## 教育フォーラム2004in小松 「デジタルコンテンツが拓く子どもの学び」

教育学部は11月20日、石川県こまつ芸術劇場うららにおいて、「デジタルコンテンツが拓く子どもの学び」をテーマに「教育フォーラム2004in小松」を開催し、県内外から100名を超える教育関係者が参加した。

初めに、中川健朗文部科学省初等中等教育局参事官が「教育情報化をめぐる最近の情報と課題」と題して基調講演し、e-Japan重点計画を中心とした国の学校教育現場における教育情報化について、現状と将来の方向性について説明した。その後、4つの分科会に別れ、三重、富山、愛媛、石川各県の小学校教諭が各教科におけるデジタル教材を活用した取り組みを実践報告。その後、活発な議論が展開された。

分科会での報告



## 全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラム

学術交流などのため各地域でつくりられているコンソーシアムや大学連携組織が、相互の情報交流・研究交流を積極的に図ろうと、11月27、28日、キャンパスプラザ京都で、「連携でこそ実現可能な新たな学びの探求」をテーマに第1回の研究交流フォーラムを開いた。フォーラムは5つの分科会に分かれて行われ、本学が所属するいしかわ大学連携促進協議会は、単位互換に関する分科会において「いしかわシティカレッジ事業の現状と展望」と題してシティカレッジの設置経緯、課題、将来展望等について報告した。



分科会で参加者と意見を交す  
田中一郎共通教育機構長（手前）  
＝11月27日、キャンパスプラザ京都

## 名古屋で開かれた産学官連携 ビジネスショウに出展

11月17日から3日間、名古屋市中小企業振興会館で開かれた「産学官連携ビジネスショウ」に本学から出展した。この展示会は、文部科学省の「大学等知的財産本部整備事業」に採択された中部地区の国公立大学の産学官連携を推進するため、各機関の発明情報・技術指導情報のネットワーク化や産業界との交流の場を提供することを目的に、「中部ものづくり産業展2004」の中のひとつとして開催されたもの。

本学ブースでは、ポスターやディスプレイを使って5件の研究を紹介し、多数の来場者の関心を集めた。



本学のブース

## 実験科学教育のフロンティア 研究と教育の接点を探る

大学・高専の教員、小中高の理科教員らが、実体験を重視した科学教育について考えるセミナーが11月28日、サテライト・プラザで開催された。大学教育開発・支援センターが専門分野別教育開発セミナーの1回目として主催したもので、「実験科学教育のフロンティア 研究と教育の接点を探る」をテーマに、国本浩喜（本学）、中垣俊之（北海道大学）、中田聡（奈良教育大学）、平竹潤（京都大学）、小笠原正明（北海道大学）の各氏の報告及びパネルディスカッションを通じ、80名近い教員が教育改善の具体的方法について議論が展開された。



発表者による報告  
＝金沢大学サテライト・プラザ集会室

## 個人情報保護へのルール作りを！

平成17年4月からの「独立行政法人等の保有する個人情報保護に関する法律」の施行に向け11月22日、勉強会が開かれた。勉強会では、法務研究科の梶見由美子教授から、個人情報保護の必要性、法の基本ルール、法の内容等について具体例を挙げながら説明があった。また、情報担当の橋本哲哉理事は「関係部署や行政法等の専門教員と相談しながら、ルール作りに取りかかりたい」と述べた。



梶見教授の説明を聞く理事と職員  
＝事務局大会議室

## 医薬系ベンチャービジネスを 立ち上げるには？

11月18日、(株)新日本科学 永田良一社長を招き「大学発バイオベンチャーのトランスレーショナルリサーチについての経験事例紹介」と題したセミナーが開催された。教職員、学生、企業等関係者ら約30名の参加者が、医薬系ベンチャービジネスの立ち上げの神髄について熱心に聴き入った。



講演する永田社長  
＝インキュベーション施設会議室

## 「大学評価」への理解を深める

11月29日、大学評価・学位授与機構 評価研究部長川口昭彦氏を講師に招き、「平成16年度からの大学評価」をテーマとした研究会が開催された。これは、学校教育法や国立大学法人法に基づき受けなければならない「大学評価」全般について勉強するもので、教職員50名が出席した。

また、11月5日には、理事・部局長に国立大学法人評価に関する共通認識を持ってもらおうと、国立大学法人評価に関する説明会が開かれた。朝倉信裕理事らから国立大学法人評価の全体像、国立大学法人評価委員会の年度評価に係る実施要項（案）、平成16年度の業務実績報告、平成17年度の年度計画の作成スケジュールなどについて説明が行われた。



大学評価について  
説明する川口氏  
＝11月29日、  
総合教育棟会議室



説明する朝倉理事（中央）ら  
＝11月5日、事務局大会議室

## カザン国立大学 創立200周年記念式典に出席

本学の大学間交流協定校であるロシアの国立カザン大学で、11月15日から18日にかけて創立200周年記念式典が行われ、本学から自然科学研究科の鈴木治彦教授が学長代理として出席した。式典では、外国の大学としては本学のほかドイツ・ギーゼン大学の代表が祝辞をスピーチした。このほか、鈴木教授は学長表敬や招待講演を行った。



スピーチする鈴木教授（左から2人目）  
＝11月16日、国立カザン大会議場

## 薬学部と河南中医学院が 学術交流協定を締結

11月15日、薬学部は河南中医学院と部局間交流協定を締結した。河南中医学院は、中国河南省の省都鄭州市にあり、1958年に創設された漢方を研究する大学で、附属病院を3つ有し、学生数10,000人、教職員数2,500人。本学で行われた調印式には、石橋弘行薬学部長、向智里副薬学部長、辻彰前薬学部長、御影雅幸教授、太田富久教授、辻弘之事務長が出席した。



協定を調印した石橋薬学部長（左）と  
彭勃河南中医学院院长（右）  
＝自然科学本館薬学部長室

## カナダ・ ビクトリア大教授が講演

11月1日、日本海域研究所では「グローバル化問題」をテーマに、政治経済学の理論と現状分析で、米加両国で著名なカナダ・ビクトリア大学社会学部教授、ウィリアム・K・キャロル博士による講演会を開いた。キャロル博士は「グローバル経済における国際企業ネットワークと国際政治」と題し、国境を越えて展開する巨大企業・金融機関指導者らによる各国政府や国際機関の政策への影響について講演した。経済学部の教員、院生、学生らが聴講し、意見交換した。



キャロル博士  
＝文・法・経済学部201講義室

## 金沢大学国際交流後援会主催で留学生が企業見学

金沢大学国際交流後援会では、本学の外国人留学生と地元企業の相互交流を深めるための事業として11月1日、第1回企業見学会を実施し、留学生26名が同後援会の協力企業である佃食品株式会社とテレビ金沢を訪問した。

最初に訪れた佃食品(株)では、実際に工場内を見学しながら、製品の製造工程、衛生管理、品質管理に関する説明を受けた。参

加した留学生のほとんどが佃煮を試食するのは初めてで、伝統的な日本の味がどのように作られるのかに強い興味を示した。

次に訪問したテレビ金沢では、番組制作から放送されるまでの流れについて説明を受けた後、事務部門、マスター部門、中継車、スタジオを案内され、番組収録の現場を見学した。この模様は同日夕方のニュースで放映された。



佃食品(株)で佃一成社長から説明



テレビ金沢のスタジオで

## 外国人留学生 西陣織など日本文化体験

留学生センターは11月4、5日の両日、外国人留学生に日本の伝統文化遺産に触れ、日本の歴史と伝統文化への理解を深めてもらおうと、外国人留学生実地見学旅行を実施した。京都市内（銀閣寺、平安神宮、清水寺、竜安寺、金閣寺、祇王寺、落柿舎）と彦根城を訪れた留学生は、西陣織会館で西陣織を体験するなど、それぞれの見学地で日本の伝統文化に触れ、思い思いに記念撮影を行った。



西陣織を体験する留学生

## 医学系研究科医科学専攻（修士課程）の概要

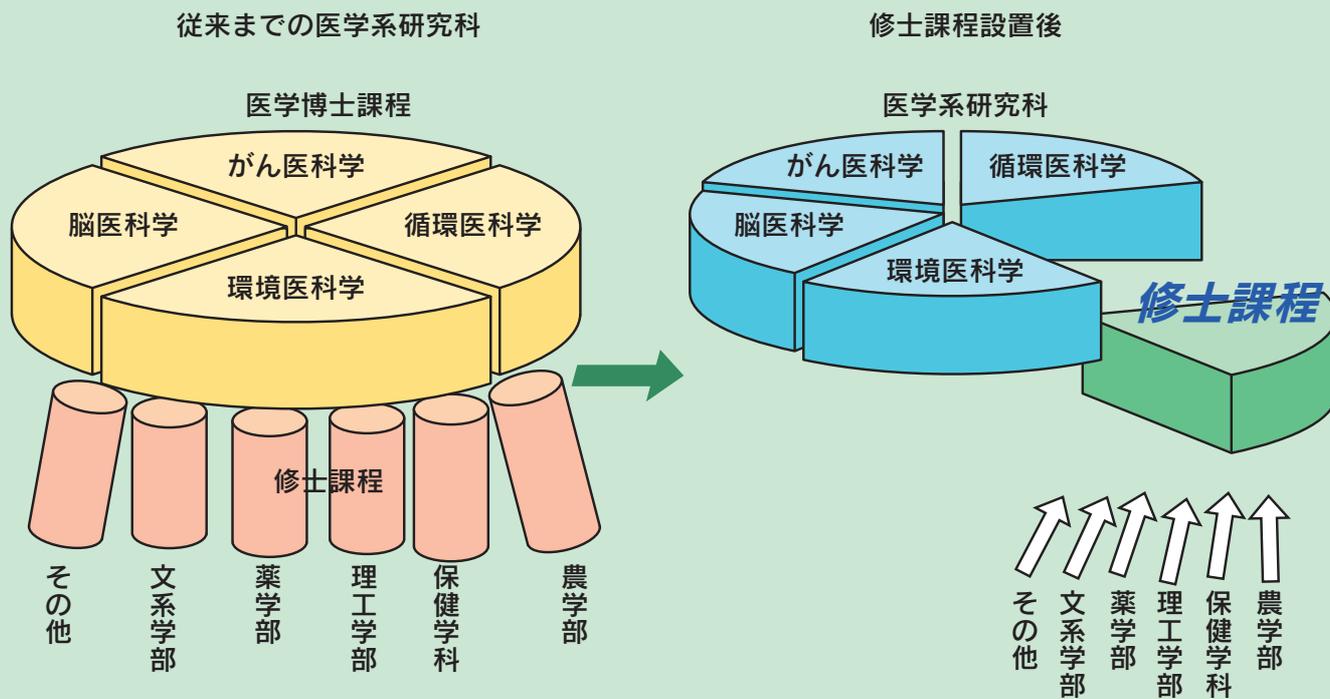
平成17年4月に設置予定の医学系研究科医科学専攻（修士課程）の概要を紹介する。（1頁に本記）

### ◆概 要

- ・平成17年4月開設
- ・対 象 者：保健学，理工学，薬学，農学，文系学部等の4年制学部卒業生，卒業見込者（社会人を含む）
- ・2年制
- ・生命科学・基礎科学・臨床科学を体系的・集中的に教育し，生命科学・医学研究者，医療及び産業分野の専門的職業人を育成する
- ・修士課程修了後に博士課程に進学し，一貫教育によって高度な研究指導を受けることが可能
- ・募集人員：15名
- ・出願期間：平成17年1月5日(水)～12日(水)
- ・試 験 日：平成17年1月26日(水)

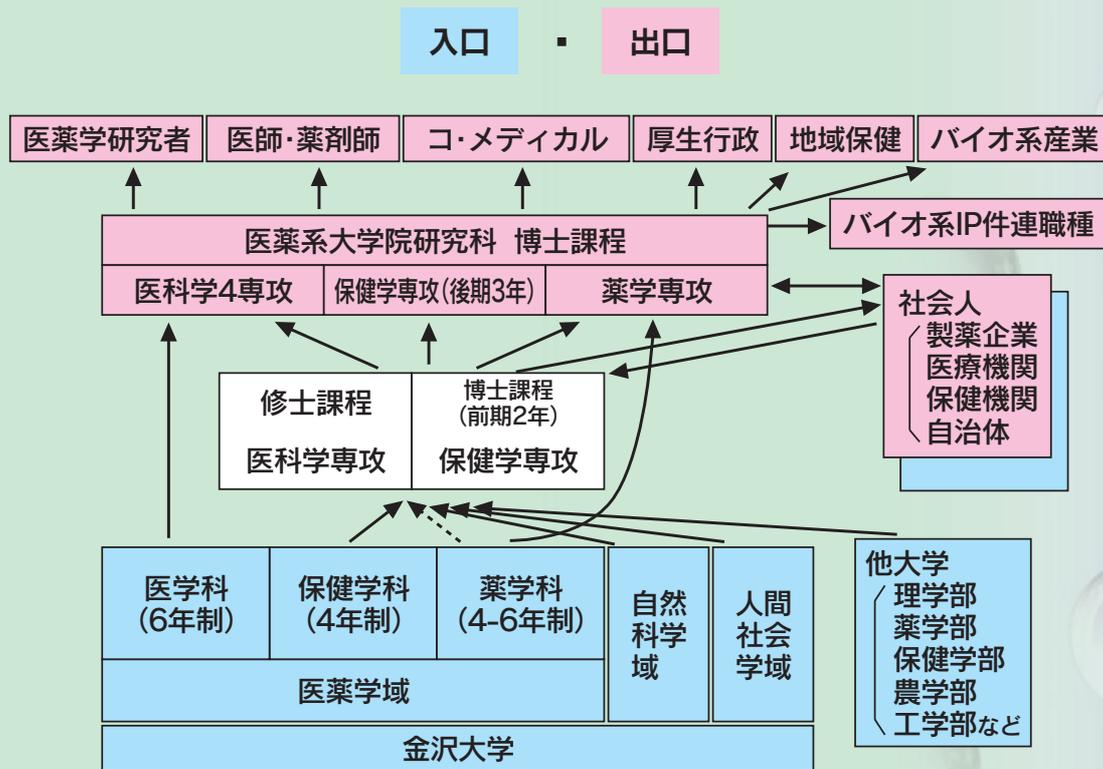
医学系研究科では，これまで，博士課程で医学部・歯学部以外の卒業生を受け入れていたが，修士課程の設置により，これらの卒業生に対して修士・博士の両課程に受け入れることが可能となり，一貫教育による優秀な医学系研究者の育成を目指す。医療の高度化・先進化に伴い，生命科学分野の研究者にも医学知識・医学のより深い理解が要求されるようになってきており，この社会的ニーズに応えたもの。

小川準備室長は，「我が国が21世紀に生き残るためには医学を含むバイオ系研究者の育成が不可欠。金沢大学医学系研究科の優秀な教員をフルに活用して世界に通用する研究者を育て，社会に貢献したい」と説明した。



従来は医学部医学科以外の卒業生が，医学系研究科（博士課程）に進み医学研究を行うためには，他研究科で修士課程を修了した後に進学する必要があった。今回の医科学専攻修士課程の設置により，他学部の卒業生が直接，医学系研究科（修士課程）に進学することが可能になった。

医科学専攻修士課程の入学生の専攻分野と修了生の進路



※注：平成20年度の学域再編をを想定した説明図である。

医科学専攻修士課程では、生命科学の研究分野又は、医療及び産業現場での即戦力となる研究者を養成する。

医科学専攻修士課程における学年進行と科目配置



医科学専攻修士課程では、形態学、生理学、内科学、外科学等の必修科目を学ぶ。本課程の特徴として動物実験学演習を必修単位としている。この演習によって、遺伝子改変動物の基礎とその医学的応用を学ぶ。

## 21世紀COEプログラム (革新脳科学)の研究が本格稼動

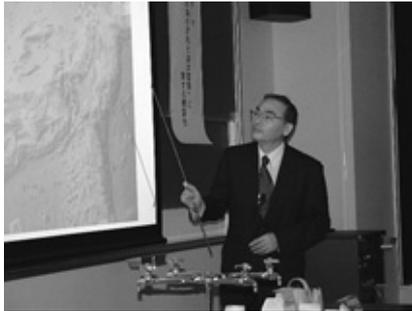
11月12日、「21世紀COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」のスタートに当たって」をテーマに、今年4回目となる先端研究フォーラムが開かれ、同プログラムにおける研究の全体像と事業推進担当者による今後5年間にわたる研究計画が、口頭発表と同時にポスター展示でも示された。フォーラムに続いてプログラム発足式も行われた。



発足式に臨む林学長と事業推進担当者＝医学部十全講堂

## 日本海の流れと海洋環境を考える

自然計測応用研究センターと21世紀COEプログラム(環日本海域)の主催で、日本海の流れと海洋環境に関する懇談会が11月25日開催され、海上保安庁海洋研究室室長の菊池真一氏、国立環境研究所海洋環境研究室室長の原島省氏が講演した。講演後、参加者による討論や日本海研究に関する両氏からのアドバイスがあった。講演する菊池氏＝自然科学本館104講義室



## 分子標的薬剤開発の現状と展望を議論

11月12日、がん研究所附属分子標的薬剤開発センター主催の第4回公開シンポジウムが開催され、約70名の研究者及び学生が参加した。シンポでは、同センター教員3名と2003年度の共同研究者4名による最近1年間の研究報告が行われた。また、西尾和人国立がんセンター研究所耐性研究室室長と、伊東恭悟久留米大学医学部教授が特別講演を行い、分子標的薬剤開発の現状と展望について議論が交わされた。講演する西尾氏＝医学部記念館



## ユーラシア東部の環境・気候を議論 西安で研究集会

中国・西安で「ユーラシア東部の環境プロセス」に関する研究集会が11月15から18日にかけて開催された。昨年度金沢で開かれた日中会議第2弾として、21世紀COEプログラム(環日本海域)と自然計測応用研究センターが主催者の一角を担った。日中両国のほかモンゴル、韓国、ロシア、ドイツ、アメリカから多くの研究者が参加し、ユーラシア東部の環境・気候について、チベット上昇や太陽活動の影響なども視野に入れた議論が行われた。さらに今後の共同プロジェクトに関する作戦会議が開かれた。最終日の野外巡検では、過去の環境変動記録媒体として名高い黄土高原を視察した。黄土高原



## ナノテクを活用したものづくり

11月19日、共同研究センターの主催で、産業技術総合研究所中国センター所長で共同研究センター客員教授の矢部彰氏が講師に「ナノテクを活用するものづくり技術の現状と展望」と題した特別講演会が開かれ、教職員、学生、企業等関係者約40名が出席した。講演する矢部氏＝工学部秀峯会館



## ゲノムに関する最先端研究の成果発表

11月30日、がん研究所主催の第3回北陸ポストゲノム研究フォーラムが開催され、約60名の研究者及び学生が参加した。フォーラムでは、医学研究科と自然科学研究科の教員がゲノムに関する最先端研究の成果を発表した。また、大阪大学蛋白質研究所の高木淳一教授が、薬剤の特異性や高親和性の構造的基盤について特別講演し、参加者との間で討論が交わされた。講演する高木教授＝医学部記念館



## 受賞

### ◆秋の叙勲（本学関係分）

11月3日、平成16年秋の叙勲が発表され、本学関係では、次の5氏が栄えある勲章を受章した。

#### 瑞宝中綬章

前田敬四郎（まえだ けいしろう）  
名誉教授，元経済学部長

#### 瑞宝中綬章

久野 滋（くの しげる）  
名誉教授，元医学部教授

#### 瑞宝中綬章

須賀 操平（すが そうへい）  
名誉教授，元工学部教授

#### 瑞宝双光章

二俣 秀夫（ふたまた ひでお）  
元副衛生検査技師長

#### 瑞宝単光章

砂崎 彌生（すなさき やよい）  
元看護師長

### ◆医学教育等関係業務功労者表彰

11月22日、医学系研究科・医学部高田正樹技術専門職員と医学部附属病院前田眞一技術職員は、医学教育等関係業務功労者として文部科学省から表彰された。

## 各部局で防災訓練

冬の乾燥シーズンを前に各部局で防災訓練が実施され、教職員・学生・留学生



### ◆北國文化賞

11月3日、北國新聞会館で「第58回北國文化賞」の贈呈式が行われ、がん研究所教授・共同研究センター長の村上清史氏が受賞した。



村上 清史 教授

### ◆日本金属学会学術貢献賞

9月28日、日本金属学会第135回大会で、自然科学研究科北川和夫教授が「日本金属学会学術貢献賞」を受賞した。



北川 和夫 教授

らが避難訓練，地震体験車による揺れ体験，消火訓練，救命実技などに取り組んで、防災への知識と技能を学んだ。



左上：医学系研究科防火訓練での救助場面，中央消防署隊員に救出される職員

＝11月24日，医学系研究科前

右上：国際交流会館消防訓練，消火器に触れるのも初めての留学生が，緊張した面持ちで訓練に取り組んだ。

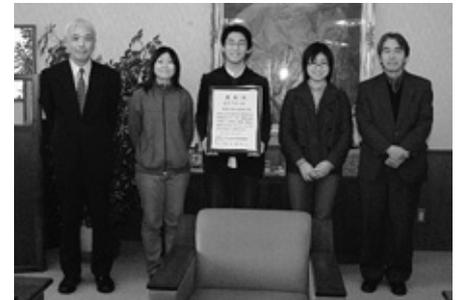
＝11月15日，国際交流会館前

左下：工学部防災訓練での救命実技，多くの学生や教職員が機敏な動作で心臓マッサージ等を行った。

＝11月9日，工学部秀峯会館大会議室

## 吹奏楽団 銀賞受賞

文化系サークルの金沢大学吹奏楽団は、10月30日に東京文化会館で行われた第52回全日本吹奏楽コンクール（全日本吹奏楽連盟，朝日新聞社主催）に北陸代表で出場し，銀賞を受賞した。



受賞報告に訪れた団員（中3名）と顧問の松中久儀教育学部教授（右端）＝11月30日，学長室

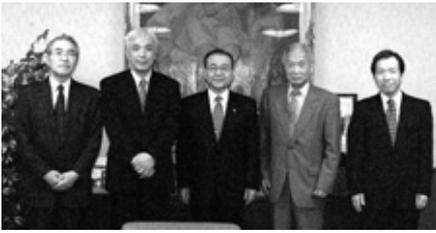
## 石川県健民運動青少年ボランティア賞 児童文化部と子ども会 サークル「つみき」が受賞

文化系サークルの児童文化部と子ども会サークル「つみき」は、地域の子もたちとの交流活動の充実への努力が評価され，11月11日「石川県健民運動青少年ボランティア賞」を受賞した。児童文化部は子どもたちに人形劇や舞台劇を届ける活動，「つみき」は子どもたちと公園でスポーツなどをして遊ぶ活動を行っている。



杉本勇寿副知事から賞状を受け取る児童文化部代表（上）とつみき代表（下）＝石川県庁

## 本学へのお客さま



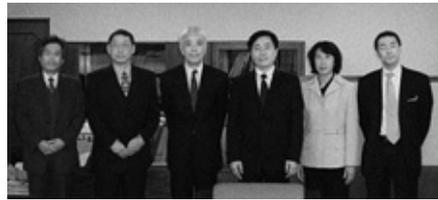
最高裁判所判事泉 徳治氏（中央）  
=11月19日，学長室



大学間交流協定校の中国・大連理工大学から  
チェン・ジェンドン学長（中央）ほか6名  
=10月29日，学長室



大学間交流協定校のチェコ・カレル大学日本  
学科のズデンカ・シュバルコーワ教授（左か  
ら2人目）=11月5日，大村副学長室



薬学部との部局間交流協定締結のため来学し  
た中国・河南中医学院の彭 院長（右から3人目）  
と劉 教授（同2人目）=11月15日，学長室



フィンランド・ヘルシンキ大学のライネル・  
オーシュ教授（左から2人目），左端は同席し  
たヘルシンキ工科大学からの留学生アク・  
リーヘラさん=11月16日，大村副学長室



韓国・淑明女子大学の金 亨國对外協力所  
長（左）=11月22日，大村副学長室

## 東海・北陸地区の教室 系技術職員が生殖工学を学ぶ

11月17日から3日間，平成16年度東海・北陸地区国立大学法人等教室系技術職員合同研修（生物コース）が本学を当番校に実施され，8機関から15名が参加した。研修では，実習・デモンストレーションを通じて生殖工学の基本的な技術を学ぶとともに，講義を通じて，研究の現場で生殖工学・発生工学を用いて，現在どのような研究が行われているかを学び，生殖工学への理解を深めた。

また，研修の最後に石川県畜産総合センターを見学し，牛のクローン技術などのバイオテクノロジーを利用した牛の改良増殖技術等を学んだ。



## 工学部 危険・有害業務従事者が特別教育講習

工学部では，安全な教育研究を推進するため，労働省令で定める「危険又は有害な業務」に指定される業務についての特別教育講習会を積極的に行っている。

6月の「クレーン・玉掛け特別教育講習会」に続いて，11月1日には「最大荷重1トン未満のフォークリフトの運転特別

教育講習会」，2日には「研削といしの取替え等の業務特別教育講習会」が実施された。2日間で学生7名，教職員25名の延べ32名が受講し，操作方法や法規関係の講義，受講者一人ひとりに対する実技指導などが行われた。



フォークリフトの運転の実技講習



研削といし取替え等業務の実技講習

## ハラスメント相談員が研修

11月25日，平成16年度ハラスメント相談員研修会が開かれ，22名の相談員が参加した。昨年度までのセクシュアル・ハラスメント相談体制から，法人化を機にアカデミック・ハラスメントを含むあらゆるハラスメントの相談体制へと守備範囲が広がり，相談員はロールプレイなどを通じて，相談員としての資質の向上に熱心に取組んだ。



## ミニ講演 太鼓をたたこう！ －90分でわかる和太鼓講座－

○月 日：11月13日  
○講 師：木越 治文学部教授  
○場 所：金沢大学サテライト・プラザ講義室  
○テレビ会議システム  
による「金沢大学遠隔  
講座」  
受信会場：  
内灘町文化会館，  
珠洲市立中央図書館  
○来場者：63名



## やさしい英会話

外国語教育研究センターは、11月の各日曜日、金沢市内の小学校教諭を対象とする「やさしい英会話教室」を開いた。8月に続いて開かれたもので、初級・中級各5名が受講した。



講師と会話＝金沢大学サテライト・プラザ講義室

## 北陸地区6大学が連携して 「まちなかセミナー」開催

北陸地区国立大学連合を構成する富山、富山医科薬科、金沢、福井、北陸先端科学技術大学院、高岡短期の6大学が「北陸6大学連携まちなかセミナー」を開催した。

このセミナーは「北陸発、知的探求の旅。」をメインテーマに、6大学の教員が講師として相互乗り入れする形で、広く市民に「知」との出会いの場を提供しようとしたもの。

10月30日富山、11月14日金沢、11月23日福井の各会場とも、前半はテーマに即して要点をまとめた20分から30分程度の講義を3つの大学の教員が行った後、後半は会場担当大学の教員が進行役を務め、参加者との質疑応答や意見交換によりテーマを深め合った。



金沢会場「北陸発の先端産業」＝11月14日、金沢大学サテライト・プラザ集会室

## 公開講座 生涯スポーツ入門

－豊かなスポーツライフ、生涯スポーツ社会の実現に向けて－

主任講師：鈴木 漠 大学教育開放センター教授



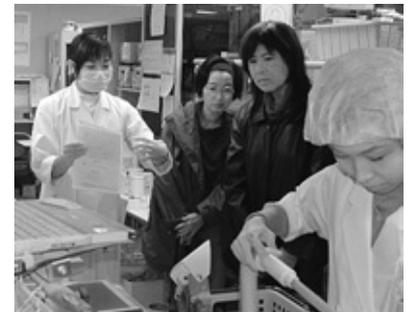
＝11月10日、金沢大学サテライト・プラザ講義室

## 市民が附属病院を見学

医学部附属病院は11月29日、厚生労働省が定めた医療安全推進週間の一環として、市民の「院内見学ツアー」を実施した。

当日は、参加者6名が医療安全管理部員の誘導で、検査部、薬剤部、厨房、リネンセンター、ベッド洗浄センターを、部署の担当者から事故防止の観点による説明を受けながら見学して回った。

参加者から出された医療安全に対する取り組みに関する意見について、附属病院では、今後の医療安全の推進に役立てることとしている。



調剤室で説明を受ける参加者

## 「がん医療の最前線」を市民に紹介

11月7日石川県教育会館で、がん研究所主催の市民公開セミナー「がん医療の最前線」が開催された。セミナーでは、がん研究所と医学部附属病院の3人の研究者が「膀胱瘍の早期診断をめざして」「患者さんにやさしい“がん外科治療”」「細胞の自殺（アポトーシス）」と題して講演し、参加した約50人の市民らが、がんの最新治療や細胞のアポトーシスについて理解を深めた。



各講演終了後、市民からの質問に答える演者ら

## 平成16年度金沢大学永年勤続者表彰式

11月24日、大学会館で平成16年度金沢大学永年勤続者表彰式が挙行政され、林学長から永年勤続者41名に表彰状が授与され

た。引き続き永年勤続者を代表して、教育学部 宮下孝晴教授が謝辞を述べた。



## 角間キャンパス里山ゾーンで台風被害

台風23号は角間の里山ゾーンに大きな被害をもたらした。強風で多くの樹木が倒れ、一部は遊歩道をふさいだ。数回の状況調査の後に、11月下旬に30数本の倒木を処理した。長年放置され、枝打ちや間伐などの手入れがなされていない杉林の被害が多かった。里山は人の管理によって維持される自然環境だということのを台風が教えてくれた。今後は「角間の里山」を整備する活動が必要かもしれない。



遊歩道に倒れたスギ

最も被害が大きかったスギ林。  
倒れなかった木も斜めにかたむいている。

## 皇居駅伝 雨の中健闘

10月30日、第12回文部科学省関係機関等教職員駅伝競走大会が皇居周回コースで開催され、本学から10名が参加した。冷雨という悪条件の中、駅伝男子の部は45チーム中12位（1周5キロ平均20分11秒）と健闘し、ロードレース女子の部では福村羊里子さんが見事優勝した。



ゴールするアンカー木下正一さん



力走後、皇居桜田門内で

## 編 集 後 記

平成8年（1996年）4月、写真中心の「グラフ アカサスニュース」は国立大学の中でも異彩を放つ広報紙として鮮烈なデビューを飾り、同年の広報紙コンクールで優秀賞を受賞した。あれから9年。この間、各国立大学の広報紙は、学報的な学内紙からタウン誌風の冊子に刷新される傾向にあり、今やアカサスニュースの歴史的役割も終焉を迎えつつある。来年4月発行の100号を区切りとして、学内外への広報の在り方と各広報媒体の役割について改めて見直し、新たな挑戦を開始していきたい。（KO）

## ◆新潟県中越地震被災者への義援金について◆

先に全学に対し御協力をお願いしました標記の義援金につきましては、各部署等から総額1,358,000円が集まりました。

集まりました義援金については、災害救助法適用地関係本学教職員（7名）及び長岡技術科学大学へ、12月6日、下記のとおりお見舞金としてお届けしましたのでお知らせします。

御協力くださいました方々に厚く御礼申し上げます。

記

災害救助法適用地関係本学教職員 358,000円  
長岡技術科学大学教職員 1,000,000円

平成16年12月17日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピース))

(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。

◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail)  
=[general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp))でも受け付けています。